

対象生態系面積の算定方法に関する資料

① アマモ場の面積の算定方法

2022 年 7 月 3 日から 8 日の間において各干潟で、UAV により空中写真を撮影した。同時に音響測深機および潜水士目視によるライン観測から、藻場の種と被度を確認した。これらの情報を組み合わせ、各干潟において被度別のアマモ場の面積を算定した。

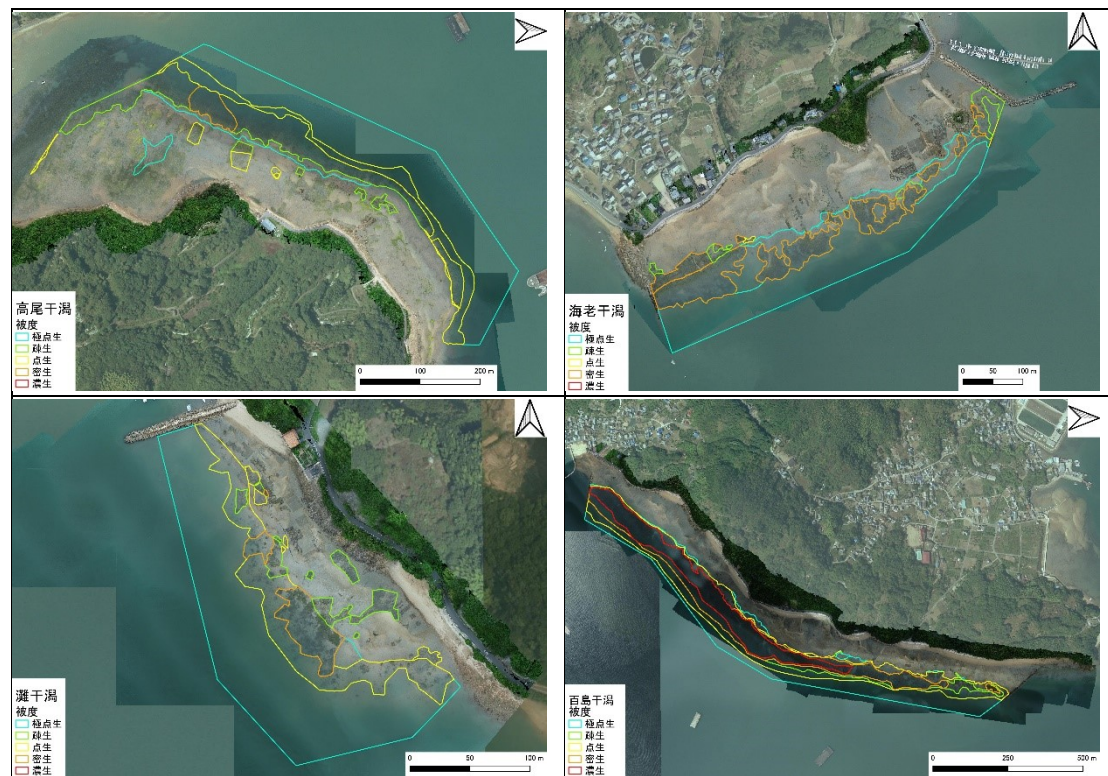


図 5 各干潟におけるアマモ場の面積の判定に用いた画像（付録参照）



図 6 各干潟における音響測深機および潜水の調査側線

(別添 1)

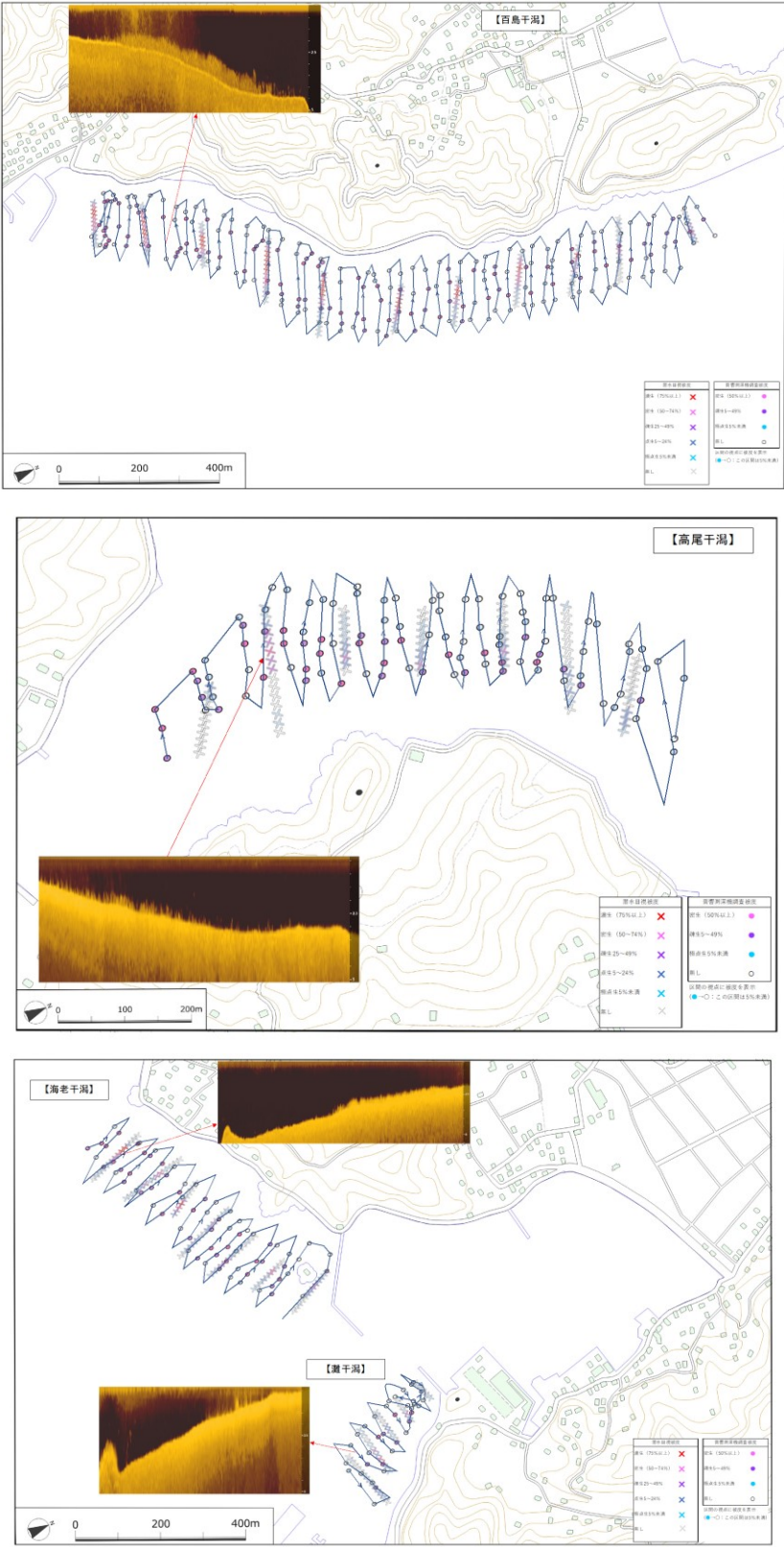


図 7 各干潟における代表側線における観察結果 (付録参照)

(別添 1)

② 干潟の面積の算定方法

2022 年 5 月 16 日（高尾）、7 月 13 日（海老、灘）、15 日（百島）に各干潟において、UAV による空中写真を撮影した。同時に複数地点において、RTK-GPS による水準測量を行い標定点とした。SfM 解析（Pix4D）により航空写真と標定点の地盤高から、10mメッシュで地盤高のデータを作成し、0.5mピッチのコンター図を作成した。

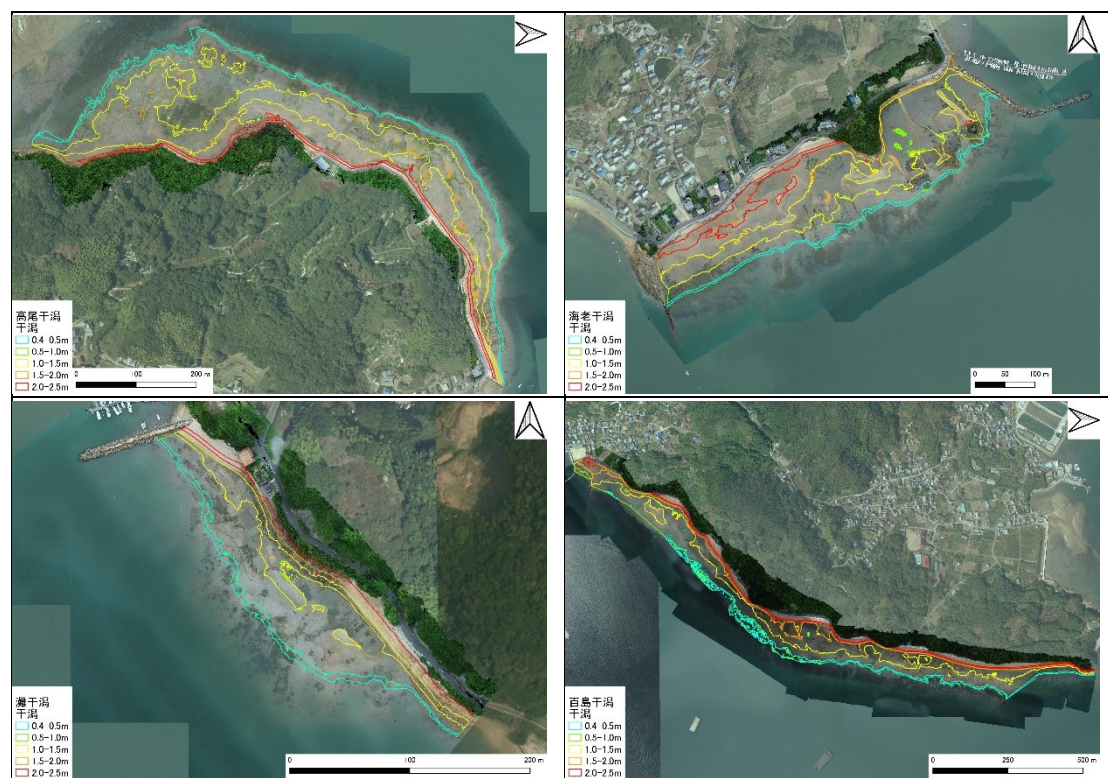


図 8 各干潟における干潟の面積の判定に用いた画像（付録参照）

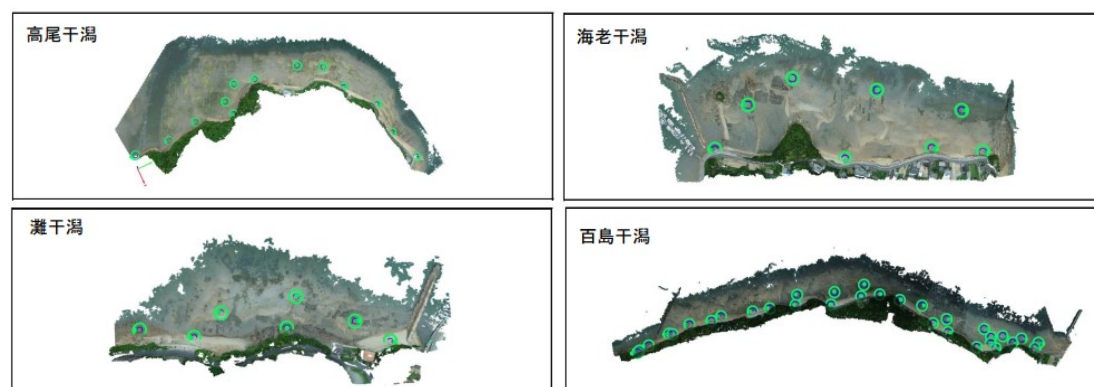


図 9 各干潟における標定点の設置状況

昭和 63 年

出典：「陸奥地区 国土地院調査報告書 昭和63年度」

昭和 63 年

出典：「陸奥地区 国土地院調査報告書 昭和63年度」

海岸線

築港

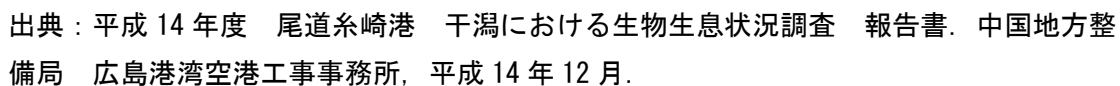
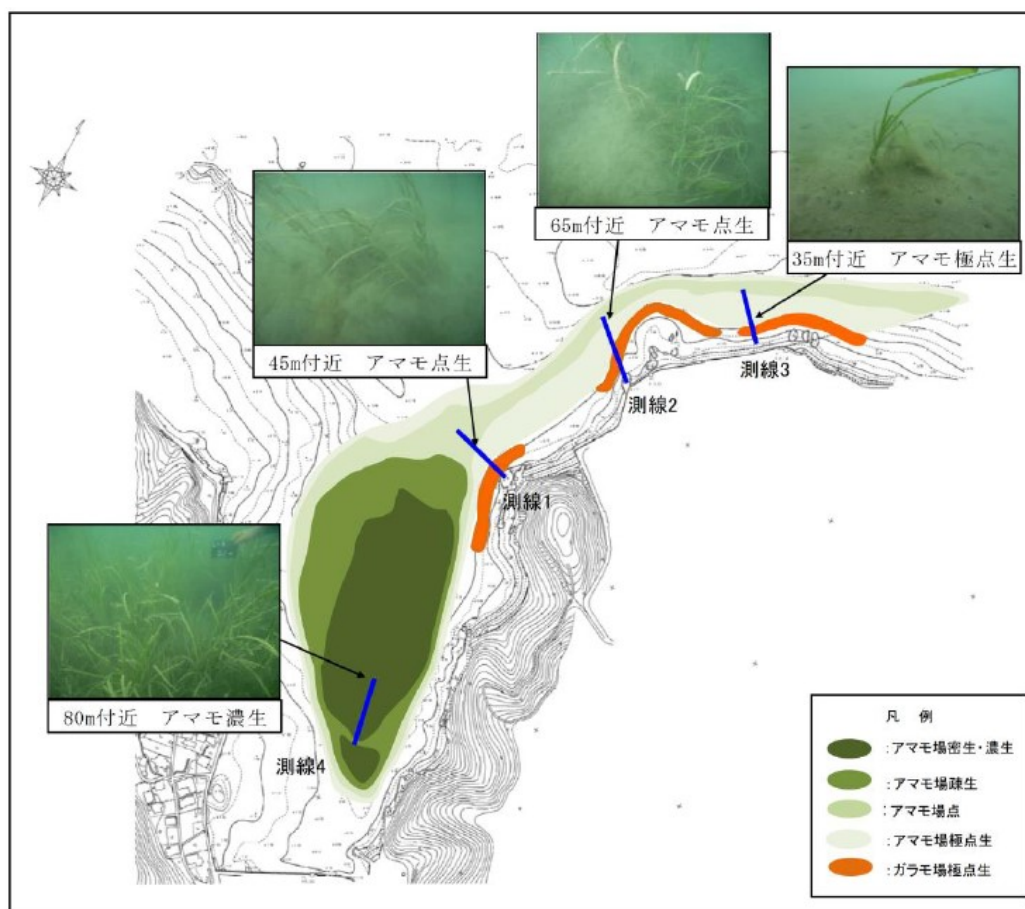


図 10 海老干潟および百島干潟における施工前・後の藻場分布の推移

(別添 1)



出典：令和3年度 広島県東部地域環境調査業務 報告書、中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所、令和4年3月。

図 11 高尾干潟における施工前（平成23年5月）の藻場分布